

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101616		
法人名	社会福祉法人 多宝会		
事業所名	グループホーム ほのぼの宝生園		
所在地	福島市上名倉字玉ノ木19-4		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中、家族様との交流が持てる貴重な行事も実施が出来なくなった状況でも、以前より大事にしてきた季節感のある行事計画を柱として、可能な限りの提供を実施してきた。入居者様一人一人の自立している行動や意思を尊重し、新しい行事や日内活動への取組にも職員が常に向上心を持って取り組んできた。面会制限の中、家族にも日々の暮らしを知っていただくことを目的とし、個人ごとにお便りを毎月作成し送付している。最新の生活状況を知っていただく工夫により、離れているご家族への安心に役立っていると考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.コロナ禍で外出・外食は自粛しているが、法人の協力で隣接している総合運動公園の銀杏並木や四季の里公園の四季折々の花や紅葉見物へドライブし、出かけた先でアイスクリームを食べるなどし、楽しみや気分転換を図る取り組みをしている。
 2.介護計画は担当職員が毎月モニタリングシートを作成し、職員会議で利用者の状況を話し合っている。「利用者が希望をもって楽しく暮らす」を目標に職員がチームを組んで支援に努めている。
 3.利用者は、日常的に食事の盛り付けや下膳、テーブル拭きの手伝いを行っており、行事時には積極的に調理等に参加し、食事の楽しみや利用者の意欲の向上につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「大切な人生だから地域と共に自分らしく暮らしてゆけるよう支援します。」という理念を掲げ、地域の活動への参加等、計画はしているものの近年はコロナ禍の状況で実施できていない。	理念は、開設当初に地域密着型サービスの意義を踏まえたものを作成し、職員が常に入りする部屋に掲示し、共有して実践につなげている。なお、理念は開設以降見直しできていない。	理念について毎年職員間で話し合いをし、振り返りをしながら、実践につなげることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況で例年、地域の方々との交流が図れていたイベントも参加が出来ない状況となっていたが、例年実施している施設行事は継続して行っており、今後の活動再開時の準備は行っている。	現在は、コロナ禍で地域行事も清掃活動や総会のみ行われており、事業所も参加している。また、中学校職体験受け入れ、芋煮会、敬老会、餅つきなどに地域の方を招待し行っていたが自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ開催に向けた取り組みが中断している状況ではあるが、今後、開催に向けて包括支援センターとの協力体制を再構築していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	面会制限中の集合開催ができておらず、書面報告が主となっていた。書面での報告は、実際の開催時期に運営推進委員の方々に送付させていただいた。	コロナ禍により、職員会議で協議した内容をまとめ、推進会議委員の方へ書面報告をしている。現在は、電話や来所時に意見を聞きながらサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	同法人の中に包括支援センターがあるため、必要時には、適宜連絡、相談を行っていた。また、災害時等の対応についてなどでは、直接西支所に出向き相談させていただいた。	地域包括支援センターを通して、情報を収集しているが、必要時は、積極的に担当課へ電話や訪問をし協力関係を築く取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束への取組に関しては、センサーマットの使用状況や注意点も含め、職員への内部研修を通じて実施している。また、身体拘束についての原則や具体的な方法についても資料をもとに研修を実施した。	定期的に委員会を開き、構成員の他、ほぼ全職員が出席している。年1回の虐待の目チェックリストの実施や内部研修、法人全体研修、外部研修に参加している。河川敷が近く、季節によって熊出没の危険性もあり、玄関開場時間を工夫するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修として「高齢者虐待」をテーマに実施している。また、年度終わりには、「虐待の芽アンケート」を実施し、統計をとり職員への注意喚起を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば積極的に参加し、必要性がある場合には、隣接の施設相談員から情報提供を仰ぎながら実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査の時点で、疑問点にお答えし改めて契約書を読み込みながら確認をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のご意見は、日々の支援の中で十分に傾聴の姿勢をとらせていただき、ご家族様へも電話等で気軽に相談をしていただけるようお伝えしている。コロナ禍の状況では、ご報告や外部への相談対応が難しかったため、ご家族からのご意見には即座に対応を図る努力をした。	利用者との日々のふれあいの中から意見や要望を聞くようにしている。また、家族からは毎月の定期通院報告や利用者が不穏時の電話連絡、家族面会訪問時に積極的に声掛けをし丁寧に意見を聞いており、すぐ対応するよう務めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議のほかに、職員との交流の機会を多く持ち平日頃よりコミュニケーションを図っている。また、年に2回、面談の場を設け直接意見が述べられるシステムをとっている。	毎月の職員会議や身体拘束適正化委員会、ケース検討会等にほぼ全員の職員が出席しており、意見や要望を多く聞き取るよう取り組んでいる。また、年2回管理者面接や日々の業務の中での話し合い等でも、意見・提案を聞く機会を多く設け、出された意見等は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回コミュニケーションシート(法人独自)を活用し意見をきくとともに、労働環境の整備や向上に向けた個人の本質をきくよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別の能力に合わせ、専門職としての能力向上を図るために、個人のスキルにあったものを選択して外部研修等の促しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者会議には積極的に参加し新しい情報の収集、共有に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の時点でご本人やご家族のこれまでの生活背景までお伺いし、入居時の困りごとの解消に配慮している。また、入居後の対応としては言葉を変えて話をしたり、個別に時間をかけて聴き取るなどの対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査やケアプラン作成時等にしっかりと傾聴することで、把握に努めるよう努力している。また、契約書についても細やかな説明を行うことで入居後の生活に安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護ステーションや協力病院等との医療連携も含め、状況の変化に対しては事前より施設とご家族様との面談回数を増やし適宜相談対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他入居者様を支援したい・手伝いたいなどの思いが入居者間である場合には、周囲の安全、相互の安全に配慮し対応し、感謝の意を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調や精神面でのサポートのご依頼や入居者の現状の情報共有を図るよう努力し、ご家族の協力のもと支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防として直接的な関わりが困難のため一部の限られた状況の中でしか実現できていない。	コロナ禍ではあるが、時間を制限して家族面会を受け入れている。しかし、知人の来所や外出は自粛しているため、馴染みの関係が途切れないよう電話や手紙等で交流を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置や活動、作業時の共同作業などの提供により関係構築に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	R2.8にご自身の理由で退去した方に対して、隣接の特養でのショートステイサービスの再申し込みによってご利用を継続していただき、状況の把握と家族支援の継続を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居までの生活背景や、入居者様本人の性格等も含め、ご家族様からの情報収集に努めている。認知症の進行に伴い、状況の変化があった場合には、その時の状況にてご本人よりお話しを伺うように努めている。	日々の暮らしの中でのふれあいや、家族からこれまでの生活状況などの情報を収集し、希望や意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族の意見や職員間で協議し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集は多方面より行い、在宅時代のケアマネージャーへの確認を行ったり、資料を取り寄せるなどで把握に努めることもある。 ※デイサービスの記録やショートステイの記録等		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に職員が見守りが出来る環境の中での生活であるため、状況の変化については、観察視点などもよく職員間で協議の上状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当が日々の実施記録表と月1度はモニタリングチャートに基づきケアの見直しを実施している。また、担当者の視点から気づく見直しのポイントについて協議を行い計画書を作成している。	介護計画は、アセスメント、本人、家族の意向を反映し3カ月毎に作成し本人・家族から同意を得ている。また、毎月居室担当がモニタリングチャートを作成し、職員会議で状況を話し合い、チームで計画作成に取り組んでいる。状況変化時は随時見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに生活の記録や申し送りノートへの記述を行い、職員間での情報共有を密に図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍や遠方にご家族様にかわり情報収集のお手伝いや緊急時の対応などを柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年については、婦人会とのつながりも活動の前面的な中止に伴い希薄になっていた。できる能力を入居前の状態と同じように提供することが困難であった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院への通院サポートを実施している。現在入居されている方全員が希望されており対応している。また、毎週火曜日に訪問看護ステーションより看護師が来られ入居者の健康管理を行っている。適宜、必要なケアが行えるよう協力体制を図っている。	入居時に受診先について話し合い、ほとんどの利用者が協力病院受診を希望し職員が同行している。また、週1回の訪問看護師と主治医が連携して健康管理を行い、家族へはその都度電話で報告している。また、歯科は訪問診療を利用し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護ステーションの看護師訪問時に状況報告を実施している。また、必要時には訪問看護より病院受診までのつなぎを行っていただくなど、協力支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーには2週間後の確実な面談実施を希望する旨、一文明記するとともに、直前の電話連絡等で確実に実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	生活レベルの低下と共に、訪問看護師とも相談を開始、ホームでの生活が今後困難な状況が予測できる時には、家族に今後の方針について説明を開始している。現時点では、看取りの施設へのご案内なども含め、お話し合いを進める状況である。	契約時に重度化介護に係る指針に基づき、同意を得ている。重度化したときは、利用者の尊厳を保ち安らかな生活が送れるよう、家族・主治医・看護師・職員が連携して支援している。終末期は、早い段階から特養や協力医療機関への対応がなされている。	重要事項説明書で説明と同意を得ているが、終末期の対応についても書面で、再度同意を得、利用者と家族の安心を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時には、研修は実践というより口頭申し送りの状況である。急変時には状態変化が起こり得る状況の入居者様が出た際に対応について職員への周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の高齢化に伴い、協力要請は困難。しかし、隣接のアリヴァーレ宝生園との協力体制のもと訓練も合同開催を年2回実施。 西支所管轄のため、今年度、相談は行っている。	年間防災計画に基づき、昼夜想定で避難訓練や通報、救護、消火、搬出訓練等を実施している。また、隣接している法人施設と合同で年2回総合防災訓練を実施している。消防署立会いはコロナ禍で実施できていない。非常用備蓄品として水・米・缶詰・レトルト食品類を3日分準備している。	年間計画へ、水害・地震等も含め総合的に、利用者の安全・安心を図ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様の歩みや生活歴を大切に考え自尊心を傷つけない配慮を行っている。	日常生活での会話やこれまでの生活で培ってきた経験、して欲しくない事・言っで欲しくない言葉等を利用者・家族から情報を得ながら、個人を尊重する取り組みをしている。個人情報鍵付きロッカーで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択してもらおうような、ご本人に決定していただくような声掛けなどを活動の中に取り入れたり日々の声掛けにも注意したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを尊重し、職員主導で無理に活動を促すような対応はせず、可能な限り希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容を定期的に導入し、カラーリングの施術も希望者がいた際には実施している。衣類なども衣替えの時期にはご家族様に協力依頼をして、ご自宅より運んでいただくなどの対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	おかずの盛り付けを行ってもらったり、参加型のおやつレクリエーションを企画し職員と共に楽しめる雰囲気づくりを実施している。	食材は外部業者を利用しており、利用者は盛り付けや下膳、テーブル拭きを手伝っている。また、バイキングや芋煮会、餅つき等の行事時には、野菜の下処理、調理等へ積極的に参加し、楽しみや役割づくりに繋がっている。職員も同じテーブルを囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼力の低下や食欲不振時には代替えができよう柔軟に食を提供したり、高カロリー補助職員等の提供で補っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの促しは個別に実施している。歯科往診も隣接のアリヴァーレ宝生園に往診でこられている協力歯科医院さんへ診察して頂いている。(希望者)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット装着に関して、使用頻度や使用物品について個別に管理し、状況に合わせて外せるよう協議している。	一人ひとりの排泄チェック表や生活習慣による排泄パターンを把握し、プライバシーを守りながらトイレへ誘導している。また、出来るだけトイレで自立排泄が維持継続が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に散歩を取り入れたり、便秘予防の為に乳製品を一日の食事に取り入れたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は固定にしているが、個々のその日の状態に応じ、入浴者の変更は柔軟に実施している。また、土湯温泉の提供を平日に実施している。	入浴は、週2回を基本にしているが利用者の生活習慣や希望に沿って、日時の変更等柔軟に対応している。また、法人所有の源泉から温泉水をタンク車で事業所へ運び、温泉浴ができるなど、利用者から大変喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の体調や就寝時の状況に応じ寝具や室温、照明の調整をして環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルごとに整備している。また、下剤管理については別表を使用するなどして明確に示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が積極的に家事や行事に参加することによって本来の性格がかいまみれたり、入居者様同士のつながりにもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿った外出支援はできていない状況だが、四季の里へは季節行事として外出し、気分転換を図った。また、一名のみだが通院サポートでご家族対応の方がおられ、定期的に外出されている。	コロナ禍の中、同法人施設の協力を得て、隣接している総合運動公園のいちよう並木や四季の里の花見等へ出掛け、気分転換・ストレス解消を図っている。また、日常的には事業所周りの散歩等で外気浴ができるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布や管理しやすいくらいの金額はご本人の要望があれば個人で所持して頂いている。しかし、買い物についての支援は現在積極的に支援ができていない状況。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より贈り物があった場合にお礼の電話をかけたり、手紙を書いていたが、家族に送付したりと関係を継続するために支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や装飾品は、あまり華美にならないように配慮し、落ち着いた雰囲気づくりを実施している。	共用空間には、季節を感じられるカレンダーや貼り絵、行事の写真等を飾り、ソファーや椅子・テーブル等を配置し、落ち着いた好きな場所で過ごせるよう配慮している。また、職員が温湿度や換気等を管理し、居心地よい環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーや廊下にソファを設置し、落ち着いた雰囲気づくりは行っている。また、談話コーナーにはDVDプレーヤーも設置し、気分転換を図れるような工夫も実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居の際に、馴染みの家具を搬入して頂いたりご家族などの写真、神棚などの持ち込みも許可している。入居時には、ご家族に居室の設えをお願いしている。	居室は、家族の協力を得て今まで慣れ親しんだ寝具・家具・テレビ・裁縫道具・神棚等を持参してもらい、その人らしく居心地よく過ごせる生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がご自身でわかるよう示していたり、個人での表札を自己作成していただき飾っている。また、それ以外では「トイレ」のみは表記し場所を明確に示している。		